

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
○	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

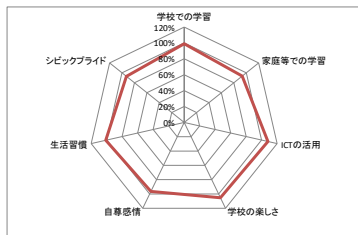
- 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っている。「書くこと」「読むこと」「情報の扱い」方「我が国の言語文化」の領域に関する内容への理解度が高い。「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」の領域の一部に課題がみられる。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくてきた問題	目的や場面に応じて、集めた資料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題。日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題。	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っている。「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域に関する内容への理解度が高い。「データの活用」の領域の一部に課題がみられる。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくてきた問題	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題。角柱の底面や側面に着目し、五角形の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題。	努力が必要な問題	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題。簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
・	「家庭学習において1時間以上ICTを活用している」と回答した割合が高かった。自分のペースで学習できる、調べたいことをすぐに調べることができるなどのよさを感じながら活用することができている。一方で学校での学習の中で友達と協同する場面でのICT活用、自分の考えをうまく伝えるための工夫、主体的な課題解決に課題が見られる。
・	「友達関係に満足しているか」「学校に行くのが楽しいか」との問いに対して肯定的に回答している児童が多い。一方「自分にはよいところがある」「地域や社会をよくするために何かしたい」への肯定的な回答をした児童が少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

主体的な学習の実現を目指した校内研究を進め、友達と協同して課題を解決する場面や、表現活動の場面におけるICTの有効活用を含めた授業改善を図る。また、家庭等での学習時間が少ない傾向があるため、ICTと家庭学習の関連をより深めることで改善を図っていく。

- 家庭生活習慣等に関する取組

学校や家庭生活、地域社会の中から疑問や課題を見つけ、学習したことを活用して解決する体験を味わうことができるような活動や学習を推進する。また、生活の中で自己有用感を高めることができるように、家庭と協力しながらこれまで以上に活躍の場を設けたり、認められたところを褒めたりしていく。